進路だより
No.21

－平成２８年１月２０日－

貝塚市立第一中学校　進路通信
〒597-0071 貝塚市加神１丁目５番１号
TEL 072-422-1527　FAX 072-422-1271

生徒と保護者のための進路情報です。保護者の方も必ずご覧ください。

大阪府私立高校の出願に向けて･･･準備はOKですか?

最後の第４回総合テストも終わり、その結果が返却されます。今回のテストでは、冬休み中の学習の手応えを感じている人も多くいることでしょう。好成績をおさめた人も、また、結果が思わしくなかった人も、点数ばかりにとらわれず、自分のつまずきをよく検証し、これからの学習の軌道修正を行ってください。

来週には大阪府内の私立高校へ出願書類を持って行くことになり、２月に入れば入試・合格発表と日程が続きます。２２日(金)・２５日(月)については、対象者(大阪府内の私立高校受験者)は必ず終礼後の説明に参加してください。また、２６日(火)の出願当日は、昼食時間が通常とちがうので、給食は利用できません。出願する人は、朝から昼食を用意しておいてください。

以下は、大阪の私立高校の出願までの進路関係の日程です。自分のやるべきことをきちんと理解して、確実に準備を進めましょう。

(○和歌山県私立高校　◆大阪府私立高校　★公立特別選抜高校)

《今後の進路の予定》

１月２０日(水)　○和歌山県私立高校及び◆大阪府内私立高校の出願書類提出締め切り
・清書して提出(担任の先生の点検を受ける)
・返信用封筒(住所、氏名を書いて、切手(必要なら)を添付)
・振り込み証明書を願書に貼る
※点検が済んだ書類は、出願まで学校で預かります。
※他府県の高校の合否によって出願が変わる人はまだ振り込まない。

１月２２日(金)　◆大阪府内の私立高校出願諸注意(放課後、学校別に指定の教室に集合)
・２６日(火)の日程の確認(３限後、終礼、昼食、諸注意、出発)
・持ってくるもの(交通費)・交通手段等の確認
・服装、お金の管理などについての説明
(別の日に出願する人(他府県の高校受験者)も一緒に説明を聞きます)

１月２５日(月)　○開智高校、出願
※３限終了後、会議室に集合、出願書類の確認、昼食(給食)
出発→ＪＲ「東貝塚駅」まで徒歩→ＪＲ「六十谷」→出願→帰校
※受験票を持って、受験番号等を会議室まで報告してください。

１月２５日(月)　◆大阪府内の私立高校出願諸注意(放課後、学校別に指定の教室に集合)
・２６日(火)の日程の確認等

１月２５日(月)　○近畿大学附属和歌山高校他、出願(郵送で出願する高校)へ
※出願書類を返却しますので、学校の帰り直接、郵便局に行き、郵送してください。簡易書留の受領証を学校に持ってきます。
※受験票が届いたら、担任の先生まで報告してください。

１月２６日(火)　◆大阪府内の私立高校一斉出願（時間は予定）
・11：50～12：00　終礼→→出願しない人は帰宅
・12：00～12：15　教室で昼食
・12：20～　学校別指定の教室に集合、諸注意後、出発
全員そろって、私立高校へ出願します
※給食は利用できませんので、必ず朝から準備してきてください。
※服装・頭髪等に不備のある人は出願できません。
※一中に戻り、全員が受験番号報告・ファイルの提出をできた学校から下校します。

１月２９日(金)　○和歌山県私立高校受験者諸注意(放課後、会議室に集合)
１月３０日(土)　○近畿大学附属和歌山高校、開智高校、初芝橋本高校の入試
１月３１日(日)　○和歌山信愛高校、智辯学園和歌山高校の入試
２月　１日(月)　○近畿大学附属和歌山高校(郵送)、和歌山信愛高校(ＨＰ)の合格発表
２月　２日(火)　○開智高校(郵送)、初芝橋本高校(郵送)、智辯学園和歌山高校(掲示)の合格発表
２月　４日(木)　★公立特別選抜懇談会(希望者のみ)
２月　５日(金)　★公立特別選抜出願書類提出締切(願書及び自己申告書)

模試を復習、ミスの原因を徹底把握

得点力を高める方法の一つがこれまで受けた模擬試験(模試)の復習です。すべての問題を見直す必要はありません。各科目で「あと少しで正解できた」という問題を見つけ、解き直します。計算ミスや設問の読み間違いなど、正解を導けなかった理由を明らかにすることでケアレスミスのパターンを知ることができ、同じ間違いを繰り返さないための対策を講じることができます。「計算は２回する」「答え方の条件に線を引く」など、本番で実践できる具体的な方法を考え、確実に正解できるようにします。

「正答率が50％以上」なのに間違えた問題も見直します。一般的に模試は平均点が６割程度になるようにつくられ、難易度が高い問題から比較的低い問題までバランスよく盛り込まれています。正答率が50％というのは易しい問題。偏差値が50以上の学校を目指す場合、必ず正解できなければなりません。難易度はそう高くないので、補強するのにそれほど時間はかかりません。解法を身につければ得点アップに結びつきます。

理解が不十分なのに「まぐれで正解した」という問題もあるかもしれません。例えば選択式で答える出題などです。模試でたまたま正解した問題が本番で出たとき、もう一度解けるとは限りません。こうした問題も洗い出し、答えを導き出せる根拠を確認します。

志望校の過去問(実際の入試問題)の演習も重要です。第１志望校なら最低でも５年分を解いてみます。出題の傾向や形式を把握したら、解く順番やそれぞれの設問にあてる時間をイメージします。試験時間をフル活用するため、大問１から解くのではなく、得意な問題を見極めてそこから取りかかるのも一つの方法です。「この問題は必ず正解に導く」「この問題は時間が足りなければ切り上げる」など、志望校の出題傾向に沿って作戦を練っておくと、本番では焦らずに取り組めるはずです。

これまでの模試や過去問の演習が振るわなくても決してあきらめないでください。いままで勉強してきたことを点数に結びつけるための練習を重ねることで合格に近づくことができます。

【朝日中高生新聞より】